28K-pm13S

医薬分業の発達の歴史的分析―1970 年代の進展の要因

〇赤木 佳寿子[1]（[1]一橋大社）

【目的】医薬分業の進展理由の分析から薬剤師職能の変化及び薬剤師に求められる役割を解明する。

【方法】医薬分業の発達の歴史的な分析を行う。そのために、いくつかの分析概念や枠組みを用いた。①単に「医師が処方し、薬剤師が調剤する」事を示す広義での医薬分業を「機能的分業」とし、その中で「経営的分業」と「非経営的分業」に区別した。「経営的分業」は処方を行った医師と経営的に独立した薬局での調剤を指し、現在医薬分業として認められるのはこの「経営的分業」のみである。「非経営的分業」にあたる第 2 薬局と呼ばれる身内による開局は禁止され、また病院内の薬局（院内薬局：調剤所）は薬局として認められていない。②20 世紀の製薬工業の革新、技術進展により、いわゆるハサミ調剤と呼ばれた現象がおこったことを「薬剤師職能の空洞化」と名付けた。③一様に語られることが多かった近年 45 年間の医薬分業の進展を 1970 年代の進展と 1990 年代の進展とに区別した。

　本発表ではなぜ、1970 年代の進展と 1990 年代の進展を区別しなくてはならないかについて明らかにしたうえで 1970 年代の進展のメカニズムについて上記概念を用いて説明する。

【結果】1970 年代の医薬分業の促進の目的・目標は「物と技術の分離」である。

【考察】発表者は 1990 年代の医薬分業の急進展は、「患者中心の医療」や「多職種連携」が薬剤師の役割の中に求められるようになったことが一因であると考える。そのためにも、1970 年代の進展が 1990 年代の急進展とは目的や要因の異なったものであることを示す必要があると考えた。1990 年代以降の進展のメカニズムについては改めて発表したい。